

2025（令和7）年11月26日

「日本言語学会 第171回大会 学会報告」

発表者：小林颯（東京外国語大学大学院博士後期課程）

本発表は、岡山大学津島キャンパスにて開催された日本言語学会第171回大会（以下、大会）の報告を行ったものである。本発表は大会の概要、発表内容の紹介、次回大会の概要から成る。発表内容の紹介は1日目の口頭発表からG-3「相対的場所表現における意味と形式のマッピング：意味地図を用いて」とE-4「ヴェーダ語祭式動詞の格交替に対する定量的アプローチ」の2つを扱った。

前者は通言語的に5種類の相対的場所表現（前・後・上・下・横）の共起関係（coexpression）を調査し、意味地図で示した類型論的研究である。結論として、[1] 相対的場所に含まれる5つの位置は、論理的に発生可能な10通りのうち7通りが発生すること、[2] 「後と下」の共起関係は他の6通りよりよく確認され、意味的類似性を反映していると考え得ることの2点を主張した。

後者はヴェーダ語（インド・ヨーロッパ語族；インド・イラン語派）の祭式動詞の格配列を体系的に示した研究である。結論として、[1] 祭式フレームを設定することで4つの格配列を特定できること、[2] 動詞における役割の相対頻度によって副次的にどの役割が対格になりうるかが決まり、それによって格交替の可能性が決まることの2点を主張した。